



願阿上人御命日に僧職によって撞かれる報恩の梵鐘八声

## 清水 第二二五号 目次

表紙題字・良慶和上筆 表紙写真・満開の桜が彩る北総門	
雪月花、神と仏と無量の命	清水寺貫主 森 清範
「雪月花三庭苑」令和再興結願法要を奉修	18
大西良慶和上法話「太子和讃講話」②	22
五明洞浄墨 良慶和上「北野天満宮半萬燈会画賛」	33
OKAGESANからのメッセージ 清水寺執事補 大西晶允	34
『四十手深要決義』を読む 第22回 清水寺執事補 森 清顕	42
京都丹後の「写刺織」で装う納経帳授与	53
新発見 寛永十年の二つの絵馬 大阪大学名誉教授 奥平俊六	54
『成就院日記』翻刻・刊行にあたって 清水寺史編纂委員 酒匂由紀子	70
「清水寺・古写真館」 明治41年建設の西門南側石階	81
西国三十三所巡礼 コロナ禍を越え満願	82
随求堂胎内めぐり 2年ぶりに再開	89
東日本大震災11年、津波ヴァイオリン奉納演奏	90
清水寺境内を会場に現代美術家が競演	92
開山忌法要、3年ぶりに成就院書院で厳修	94
良慶和上四十回忌、平成修理落慶を奉告	95
涅槃図掲げ恩徳偈ぶ、阿弥陀観図も奉掛	97
水の日法要営み、青龍会も雨の中、行道	98
内外往来	100

編集後記

# 雪月花、神と仏と無量の命

清水寺貫主

森

清  
苑

今年は厳しい寒さの冬でした。テレビのニュースを見ていますと、日本海側や北日本では雪がよく降っていました。皆さんのお住まいの所はいかがでしたでしょうか。加えて新しい株の新型コロナウイルス感染が拡大し、日本のほとんどの都道府県でまん延防止等重点措置が実施されました。コロナ禍の対応の仕方については随分とわかってきました。けれどもいささか窮屈な毎日です。その重点措置も彼岸の中日にやっと解除され、ひと安心しました。けれども変わらず感染対策は必要です。マスクを着け、手洗いを徹底し、三密を避けることが大切です。

重点措置が解除された彼岸の時に、ちょうど清水寺仁王門前の紅梅が満開になりました。厳冬のせいで例年より一週間ほど遅くなりました。あの紅梅は樹齢百五十年になる名木です。森孝忍部長の話です



法話する森清範貫主

と、明治維新の時に境内の風致を整備しようというので盛んに植樹をした古木の一本だといっています。幹はもうすっかり苔むして、一部は朽ちてきていますが、咲いている花は実に若々しい。皺くちやの花は

一つもない。キリッとした花です。私も幾ら年を取っても皺くちやにならないように、シャキッとした姿でいたいものだと思いつながら、いつも紅梅の下を通過して境内を巡拝して行きます。

### 岩木山神社に移植した丹款梅

紅梅の名木ですので、すでに子孫木を何本か作って育て将来に備えています。その子孫木の一本を、もう四年前になりましたが、青森県の岩木山神社に奉納植樹しました。皆さんは岩木山神社にお参りしたことがありませんでしょうか。岩木山は津軽のどこから仰ぎ見られる神の御山です。霊山であります。そこに建てられております神社の御祭神の中に坂さかの上刈田うえのかじまののみと磨命まののみことがいらっしゃいます。私どもの清水寺の大本願であります坂上田村麻呂公のお父さんであるのです。ですから清水寺と岩木山神社とは平安の昔からご縁が深いのです。それで地元の人たちでつくっています津軽音羽会が五周年になるのを記念し、御神前に清水寺の老紅梅子孫木を植えようということになったのです。



春の青龍会の頃に咲きそろった仁王門前の紅梅

植樹の日は四月も下旬のことでしたが、大変寒い日でした。いまでもよく覚えております。雪がたくさん残っていました。参詣された方はご存じだと思いますが、境内にはきれいな水がこんこんと湧いています。お参りするには立派な楼門をくぐり、そして中門を通って拝殿に昇ります。その向こうに瑞垣みずがきをめぐらした本殿が見えておりました。いずれもが国の重要文化財であります。楼門も拝殿も元々は寺の山門や本堂だったものです。明治維新の神仏分離、はいぶつしやく廃仏毀釈で寺がなくなり、建物だけが残り転用されているのです。その本殿に刈田磨命が祭られているのです。ということの中門の前に清水寺の老紅梅の子孫木を植えさせていただきました。以来、お参りしていませんので、育っているものかどうか見えないのですが、昨年暮れに津軽音羽会の方々がいらっしゃいましたので尋ねましたら、「立派に育っている」という話でした。一度見に行きたいものです。奉納植樹にあたって名前を付けさせていただきました。「丹款梅たんかんばい」という銘にしました。「丹」も「款」も「まごころ」「まこと」という意味です。ですか

ら「丹心」「丹誠」といいますと「まごころ心」「まごころ」です。「款意」は「誠意」のことです。

### 優しい真心の人、田村麻呂公

どこからどのように命名したかといえますと、坂上田村麻呂公はどんな人だったかを書いた伝記があります。『田邑麻呂伝記たむらまろでんき』といえます。坂上田村麻呂公について書いている本には大概引用されています。そこにこう書かれています。

「大將軍、身の長たけ五尺八寸、胸の厚さ一尺二寸、向かひて以てもつこれを視れば優ふするが如く、背うしろより以てこれを視れば俯ふするが如し」

大將軍は田村麻呂公のことです。身長一七六センチ、胸の厚さ三六センチ、今では日本人も体格がよくなっていますので身長五尺八寸、一七六センチでは驚きませんが、古代日本にあっては大変な偉丈夫です。ですから面と向かいますと倒れ掛かってくるようですし、後ろから見ますと身をかがめているように見えました。目は澄んで鋭く、黄金色の鬢びんが豊かに垂れていたそうです。いかにも勇猛な武将の顔

つきです。さらに、こう書かれています。

「怒りて眼を廻らせば、猛獸も忽ち斃れ、咲ひて眉を舒めれば、稚子も早やかに懐く。丹款、面に頭れ、桃花、春ならずして常に紅く、勁節、性を持し、松色、冬を送りて独だ翠なり」

怒って睨みつけると猛獸でも恐ろしくて倒れてしまふけれども、笑い顔になり目に陰しさがなくなつたら小さい子どもでもすぐに懐いてしまいます。そして丹款すなわち優しい真心が表情に現われて、春でもないのに桃の花が何時も赤くほころんでいるような温かさがあり、堅い節操を持ち続けて、それは松の色が寒い冬もずっと変わらないのと同じだといっています。このような田村麻呂公のお人柄だったといっているのですが、この丹款の言葉を命名にいただきました。田村麻呂公の真心をお父さんの刈田磨命に捧げたいと思つたのです。

梅の花はよろしいですね。京都で梅の名所は南の城陽に青谷があります。何年か前に私も連れて行つてもらいました。小高い丘に一面梅林が広がっています。そこから北の方の京都市内へやって来ますと

城南宮があります。枝垂れ梅が見事らしいのですが、訪ねたことがあります。途中の宇治市には西国十番札所の三室戸寺があります。ここも最近できた梅園の枝垂れ梅が素晴らしいと新聞に写真が載っておりました。住職の伊丹光恭師は私より少し若い老僧ですが、札所仲間以前はよく会合で一緒しました。なかなかの発案家であり、精進努力の人でありまして、寺はやはり多くの人にお参りに来ていたのかなといけない、それには花を植えようというので、蓮を桶に入れ咲かせました。それからツツジやアジサイを土手にたくさん育て、初夏から梅雨の時は見事なものです。花があると人が集まってきました。そして今度は枝垂れ梅です。和尚もなかなか考えているなあと感じました。

### 北野天満宮「花の庭」再興

しかしながら、京都の梅といえば天神さん、菅原道真の梅を思い出します。

こちふかば匂ひおこせよ梅の花  
あるじなしとて春をわするな

有名な歌です。そして京都で天神さんと言ったら北野天満宮になります。境内にはやはり梅苑があり、名所になっています。そこにこの度、「花の庭」が復興しました。今年一月二十六日のことですが、私も再興奉告祭があつて招かれ出席しました。どうしてかといいますと京都には江戸時代から「雪の庭」「月の庭」「花の庭」三つの名苑があり「雪月花の庭」と並べて持て囃はなされてきて、その一つ「月の庭」が清水寺の成就院庭園のことだからです。三つの名苑は俳諧の祖であります松永貞徳が作った庭だともいうのです。

これは少し違うと思うのですが、それはさておき北野天満宮は平安時代中期に創建された「学問の神さま」「芸能の神さま」の神社として有名であります。皆さんも受験の時はお世話になったのではないのでしょうか。そのお陰で、よい学生生活を送れた人が多いと思います。全国に一万二千社ある天満宮、天神社の総本社であります。

北野天満宮はもちろん神社であります。代々みや宮仕という社僧が住んでいて神仏一体になって歩いて



再興なった北野天満宮「花の庭」(同天満宮提供)